

令和元年度 第1回若桜町総合教育会議 議事録

1. 日時 令和2年1月21日(火) 午後3時から午後4時10分

2. 場所 若桜町役場2階 第1会議室

3. 出席者 町長 矢部 康樹
教育委員会 教育長 新川 哲也
委員 伊井野 早苗
委員 福田 浩子
委員 武田 恭二
委員 森岡 則明
オブザーバー 教育委員会事務局次長 山口 由企夫
教育委員会事務局次長補佐 中田 幸一
教育委員会事務局主任 山根 あずさ
事務局 総務課課長 竹本 英樹
総務課主任 志水 栄介

4. 議事録署名人 委員 福田 浩子
委員 武田 恭二

5. 協議事項

- (1) 学校におけるICTの活用について
- (2) 学力向上について
- (3) コミュニティ・スクールについて

1. 開会(竹本総務課長)

2. あいさつ(町長) 今日、1回目の総合教育会議ということで、今タブレット一人一台ということが言われている。それからデジタル教材の活用、併せて学力向上、鳥取県の学力は全国で平均値だが、いかに上げていくのかを考えていく必要がある。特に若桜の場合は子供の数が少ないので特色のある取り組みで学力向上に向けて皆さんの意見をいただきたい。

次に、コミュニティ・スクールについては、先般PTAから協議課題として挙げられている。実際若桜の場合は、このコミュニティ・スクールに関連するような事業を沢山やっている。全県下で、2年以内に実施できるような県で進められている。山口県は、すでに全自治体、全学校で出来ているということだ。これについても忌憚のないご意見をいただきたい。

竹本総務課長 運営要項第7条第3項に議事録を作成し、これを公表するとなっている。また、同条第3項に議事録は町長が指名する2人の構成員の署名を持って、確定すると

なっている。署名委員は、福田委員と武田委員にお願いしたい。

(1) 学校におけるICTの活用について

竹本総務課長 1点目の若桜学園におけるICTの活用について、教育委員会事務局から概要の説明をお願いします。

中田次長補佐 ICTを町の方に沢山いれていただいて、現状としては若桜学園は、タブレットを各教室5台ずつ、共用のものが30台、計75台のタブレットがある。小学校1年生、2年生は、タブレットを使って授業をすることは少ないと思うので、現状としては、うまく活用すれば、一人一台で活用できる状況になっている。

2階の情報処理室にもコンピュータが生徒数分確保されているので、例えばパワーポイントを作ったり、そういうコンピュータ教室での学習はできるようになっている。

あと、これはとてもいいなと思っているのは、特別支援学級でも、タブレットを使って、例えば、ひまわりとかですと、学年が複式で違うのでそこで、ドリル学習を自分の当該学年より下に下りて、例えば、4年生の子が3年生、2年生の学習内容の時に、タブレット学習を使ってするというような状況になっている。電子黒板は各教室にあるので、わりと多くの授業で使っている。

学校で統一して同じような、というところはないが、中学校の先生は、専門性があるので、例えば、英語だったら電子黒板を使いながら、発音が出たり、線を引いたりというようなことで使っている。理科では、実験の様子をタブレットで動画撮影することによって、後で検証する材料にしている。数学では、ドリル的な、先ほど特別支援学級の話もあったかと思うが、ドリルで個別学習をすると、自分の得意不得意を見極めて、使っていくことができる。

小学校も沢山使っているが、どちらかというと大型提示装置としての役割で電子黒板を、教科書等を提示して、みんなで共有している。国が示している初期段階である、提示ので活用については、若桜学園は、十分できていると思う。

次のステップは、タブレットを個々にもって、自分の学習を深める、ドリルだけじゃなくて、深めるためのツールとして使うことだ。例えば、タブレットで自分の考えをデータ化したものを電子黒板に映すと、10人分の意見が並んで見えて、効率的に授業を進めることができる。それが、来年度以降の目指すところ。

新川教育長 決して持ち腐れというか、埃を被っているわけではないということか。

中田次長補佐 はい、使っている。

矢部町長 個々でタブレットを持たせることは大賛成だが、どこまで自由に使わせるか。ロッカーに入れてカギをかけて、使える時間は1日ちょっとですよというのは、どうかと思う。出来るだけ多くの時間、個々の学力向上につながる使い方を考えていただきたい。一番いいのは家に持って帰ってもらうこと。ただ、家の中のWi-Fi環境がある家とない家があるのではないか。

中田次長補佐 アンケートを取ると各学年で1人か2人、家で使えない子がいる。低学年は使わせたくないという家庭もある。だから町で全体をとというよりもピンポイントでその子をどうするかという話に持っていく方が若桜は早いという気がする。

矢部町長 わかりました。実は、先日、家で使える環境整備の助成をしてほしいと知事に要望した。

新川教育長 ICTについては、国としても経済対策という側面もあり、タブレット端末を生徒一人一台というのが、これからのスタンダードという考えで、いつでも、どこでも、何度でも自分のペースで学習に繋げるツールだと、何も特別なことはない。ただ、高速大容量の通信ネットワークはまだ学校にはないので、併せて整備していくことも検討していきたい。国の方から早期着工をとという話もあり、3月補正であげさせてもらいたい。

また、環境整備と併せて、ソフトの研修や機器を活用して授業の質の向上に繋げていくような取り組みのためには、先生方の研修も必要だ。学校内にICT支援員を配置していただいて、質の向上を図るといことも活用に関がっていくと思う。

気になっているのは、整備するときは国の助成なり起債措置があるが、将来、維持管理費が結構な費用負担になるのではないかと、5年も経てば、買い替えの時期も来る。

矢部町長 Wi-Fiは、鳥教ネットのサーバーにあるテキストを使うのであれば、情報ハイウェイを使うけれども、例えば、うちのサーバーにドリルとか、いろいろな教材を入れておけば、そしたらWi-Fi環境の中で外にできることなく、子供が50人、100人問題なく使える。外部に繋がっていないから。

中田次長補佐 今使っているイーライブラリーがそれだ。イーライブラリーは、内で完結している。そこにドリルを入れておけば、子供たちは自由に使える環境になる。子供たちがドリルをしたらこの子はどこまで進みましたよという進捗も学校の管理用パソコンで把握できる。誰がどれだけドリルをやったとか。それと併せて、親との連絡を今紙でしているが、それがタブレットになり、親が確認ボタンを押せば、何時何分に見ましたとかえってくる。そういう使い方がいいと思う。

矢部町長 場合によっては通信簿もそこに入るかもしれない。もし、タブレットを落としたり、忘れても、そのタブレットの中には何もデータが入っていないので漏えいにはならない。また、グーグルやヤフーには繋がらないようにサーバーで管理することも出来ると思う。だから、子供がそれを見ていたら、遊ぶ要素はまったくないように出来る。

伊井野委員 ゲームをしていたら困りますからね。

森岡委員 それは大事なことだと思う。

中田次長補佐 イーライブラリーは全国で使われている。

新川教育長 学園から保護者にイーライブラリーでこんなことができるよというお知らせはしてあるのか。

中田次長補佐 行っている。

森岡委員 どういうシステムになっているかわからないが、やっている、やってないが先生にわかるようになっていて、遅くまでやっていたな、ということを先生に言われたりすることもある。だからやらないといけないと子どもが言っていた。

新川教育長 あと支援員の関係ですか。

中田次長補佐 個人的な意見になるが、支援員を町で確保して、役場と学園を合わせて見てもらうのがいいと思う。学校だけで完結しない。情報モラル、セキュリティ対策も考えない

といけない。先ほどのイーライブラリーもスマホでも管理ができる。教員が個人のスマホに入れてしまうと大変なことになる。情報モラル教育を併せて推進するため、学校だけじゃなく、町として取り組んでいただいきたい。役場にいながら、学校に派遣していただくとかそういう立場の方がおられる方が多分都合がいいと思う。本年度は、学校の中に閉じてしまっているの、町と連携した形がいい。

矢部町長 確かにセキュリティモラルは専門性が違う。学校の先生の指導であったり授業の構成を作るそういう専門員は必要ないか。

中田次長補佐 いればいいが、今年入っていただいて、やはり時間がかかると感じた。1年で完結するものではないので、先ほど提案した役場の方に入っていただいて、機械の使い方とか情報モラルの指導をしてもらえればと思う。授業のことは教員の責任なので、教員自身が研修して授業を作っていく姿勢がないと、逆に支援が入ったがゆえに頼ってしまうと、教員がなかなか育たない。

矢部町長 どちらがいいでしょうか。いくらでも授業の支援員は頼むことができる。ただ言われるように、先生は、支援員が来られれば頼ってしまう。ただ、ICTが苦手な先生が、まったく使わないまま行くのもどうかと思う。

中田次長補佐 学校の中でチームを組んで、研究組織を作って支援員さんと連携しながら進めることが、これから必要になってくると思う。

伊井野委員 学校に来てもらうにしても、教育的な専門性ではなく、機器についての専門性を持った人がおられる方がいい。

中田次長補佐 ある程度限定された中で、主体を学校に置いてチームを組んで、支援員には研究のアドバイザー的に入ってもらう方が伸びると思う。

(2) 学力向上について

竹本総務課長 2点目の学力向上について、教育委員会事務局より、概要を説明していただいて、また意見交換等していただければと思う。

矢部町長 先日の総合会議の中で、ある首長さんが、県に対して、学力向上をどうするのか。全然伸びていないということを言われていた。

伊井野委員 以前は、鳥取県と言えば教育県だった。

矢部町長 どうしたらいいでしょうか。

新川教育長 どの県も一生懸命やっておられる。先進県と呼ばれるようなところに行って、実態調査して、それを持ち帰って活かせることはないか。ただ、若桜町の場合だとどうしても分母が少なく一人あたりの影響が大きい。単純に平均で評価はできない。やはり一人ひとりの学力がつく、そういう取り組みが必要。

伊井野委員 その通りだと思う。若桜のメリットはそこだと思うので、一人ひとりに対応したことができれば、成果は出ると思う。

矢部町長 今も、そういった取り組みはされているのではないか。

新川教育長 ICTを使ったり、教育委員会の放課後学習支援教室や夏休み期間中の学習支援教室等を行っている。

矢部町長 一般的な授業の中では、皆さんに向けた授業をされている。ところがどうしてもクラスの中で成績の上下がある。その個別の指導というのはされているのか。

伊井野委員 私が若桜小学校にいたころから算数は、学力の状況に合わせてクラスを2つに分けて、指導していた。今でも続いていると思う。ただ個別に一对一で指導するという時間が、以前に比べてできなくなった。集団下校が始まってから、放課後の時間が使えなくなったことが大きい。また、働き方改革で、先生の労働時間にも制限がある。

矢部町長 先生の指導方法を議論する場はあるか。

伊井野委員 月に1回は授業研究がある。月ごとに先生と教科を決めて、授業後は必ず、研究協議している。

矢部町長 反省会のようなものを行うのですね。

伊井野委員 はい、また、年に何回か中京大学の先生に指導していただいている。

矢部町長 最近は、授業のやり方の本が出ている。やり方がつまらない、形骸化しているとか、やはりそういった話し合いの中で形を変えることは大切だと思う。

伊井野委員 退職の年代が押し寄せてきていることが大きな課題だ。今、小学校の採用倍率は2人に1人。そうすると長い間講師をした人は、経験があるからいいが、今は、大学出たてで本採用となっている。先生が足りない状況だ。出来るだけ鳥取県に残ってほしいが、県外の学校に就職する人もいる。だから先生の指導が大変だ。大学出たてでも同じように授業をしないといけないし、他のベテランの先生と子供に対す責任は同じだ。そのあたりが学校現場においては大きな問題。新採用の先生を指導する先生というのも必ず付いていて、退職された先生も若桜学園の先生の指導に行かれているように聞いている。

中田次長補佐 お手元の資料は、今年の広報わかさ 11月号で小学校、中学校の成績の状況を紹介したものだ。

新川教育長 小学校が概ねいいが、中学校が全県下で平均値を下回っていた。ただ繰り返になるが、分母が少ないので、一人の及ぼす影響が7%、8%になる。平均だけで若桜学園の状況はこうですと語ってはいけないところがある。少人数学級できめ細かい教育をしているでしょうけど、どうしても学年によってはバラつきがある。

矢部町長 そのバラつきを出さないためには、どうしたらいいでしょうか。

新川教育長 本人も頑張らないといけないと思うし、家庭でもしてもらわないといけない。学校はもとより。

中田次長補佐 今、バラつきという話があったが、この2年ぐらい見ていて、家庭の要素がすごく大きいと感じている。ただそれが数値では見れないものなので、個人的な印象でしかない。全国学力調査ですと平均と比べたりするが、家庭の教育力は、数字で見れない。

標準学力テスト等を毎年見ていったときにどう変わっているのかを分析することが若桜にはいいと思う。学園に入った時点で成績が悪いのか、どこかで悪くなってしまったのか。または良くなったのか。9年間を通した分析がいるのではないか。その時だけの結果を見て、良い悪いと言うよりもどこで変化があったのか、または家庭的な状況で、わずか15軒ぐらいですし、そういう見方をするのが、個に応じた教育だと思う。その上で、授業の中で宿題の出し方、家庭へ対応ができるのが良さだと思う。50人や100人の集団になると揉まれて、

平均化していく。手をかけすぎではいけないところだが、実態を掘り下げて捉えることができる。もっと言えばそれが直結してしまう。

伊井野委員 標準学力調査というのは、長年していて八頭郡はどこの学校も市町村からテストの費用は補助してもらっていた。鳥取市は合併してから補助がなくなり、今はテストを行っていない。だが若桜はずっと続いているので、知能検査とか標準学力検査の費用は、親の負担でなくて、町に負担してもらっている。1年生の時の状況、2年生の時の状況、それと知能との相関関係で、この子は持っている力に比べてよく頑張っているとか、これだけの力があるのに十分発揮されていない等、データから分析できる。それから仲間づくりの人間関係の調査も補助してもらっている。たった、15人から10人以下のクラスになるので、一人ひとりのデータを分析して、なぜこの学年で落ちてきたのか。この子はこの時期に伸びてきた。この分野がこの子はすごく苦手だ。そういうことを考えていただきたい。平均点で見ることではできないから個々の成長ぶりというか過程を捉えていってそれを指導に活かす、そういうことしかないと思う。そういう面では、手厚い。

新川教育長 一人ひとりのデータ分析は行っている。分析をして今後の取り組みについてどうしたらいいか。先ほどの話で、活用したり説明したり応用を効かせて自主的に学んでいければ。どうしても本人にやる気がないと、どれだけ周りが環境を整えても難しい。ハートに火をつけるというか、やる気にさせる。それから学力の二極化ですが、上位層と下位層。そういったあたりは、ICTを活用して個々のレベルに合わせた学習をさせたり、何回も繰り返ししてもらったり、やってみたらいいと思う。

矢部町長 タブレットを活用して、問題集やいろいろな教材を子どもたちに提供してあげること、みんなが同じ物じゃないといけないということはない。学力に応じたものが学べるような取り組みをしてあげてください。よろしく願いいたします。

(3) コミュニティ・スクールについて

竹本総務課長 コミュニティ・スクールについて、教育委員会事務局より概要の説明をお願いします。

新川教育長 県でも積極的に取り組んでいて、地域と共にある学校づくりを行うということで、学校が核になって地域を元気にしたり、自分たちも地域に育ててもらったりということで、学校運営協議会や地域協働本部を設置して、今まで学校がお願いしたり、あるいは地域にお願いしたりというようなことだったが、共通の目標を認識し、お互いにできることを話し合ったりしながら、子どもたちの成長を育んでいくことを目指すものだ。若桜は実態としてそういったことをやっている。ただ、形を整えてさらに取り組みを進めていくということで、教育を語る会、PTA、学校、教育委員会で研究したり協議しながら同意へ向けて取り組みを進めていきたいというふうに思っている。

矢部町長 協議会は、来年度に作られますか。

新川教育長 令和3年度に向けてつくる。

また、教員が今やっておられる業務についても、本当に学校の先生でないといけないのか。これから検討していかないといけない。逆に学校の方でも地域の中でこういったことを一


緒にやったらどうかということがあるかもしれない。これまでも地域に開かれた学校ということで、いろいろな行事にも参加してきた。

矢部町長 了解です。

竹本総務課長 その他ということ何かありますか。ないようですので、これで終わりたいと思います。ありがとうございました。

上記議事の顛末に相違ないことを証明する。

令和2年2月27日

議事録署名人 武田 恭子 

議事録署名人 福田 浩子 